

町道156・176号線改良工事に伴う 入郷遺跡 現地説明会資料

2022年4月16日

入郷遺跡は、九度山町入郷の、紀の川の浸食により作られた台地上にあります。かつて、畑地のための貯水場建設工事の際に、縄文時代の石鏃(矢じり)などのサヌカイト(讃岐石)製の石器が採集される散布地として発見されました。

今回の調査では、中世の人々が生活した痕跡(遺構)が見つかりました(写真①②)。掘立柱建物跡と柱穴跡(写真⑥)、中世土器が多く出土した土坑(写真③)、カマド跡(写真④)、柱穴跡から土師器皿を使った灯明皿(写真⑤)などを発見しました。また、普通の集落跡で出土するような、生活雑器である土師器皿や瓦器碗・皿、煮炊具である土師質羽釜などが多く出土しています。一方、当時の高級品である中国製の蓮弁文青磁碗の破片が十数点、見つかりました。その他、滑石製石鍋の破片が2点出土しました。割れてしまった石鍋を加工して、温石(石を温めて懐炉として使用)にしたもののようです。

この場所は、交通の要衝である、紀の川と大和街道を一望できる台地上にあります。また、高野山や慈尊院にも近く、中国製青磁碗や鉢の破片が見つかることから、一般的な集落とは違う階層の人々が生活していたのかもしれない。



①調査区全景(東から撮影)

公益財団法人
和歌山県文化財センター
和歌山市岩橋1263-1
tel:073-472-3710
<http://www.wabunse.or.jp/>

②調査区全景(南上空から撮影)



③中世土器が見つかった土坑(北から)

④カマド跡の発見状況(南から)

⑤柱穴跡から見つかった灯明皿(西から)

⑥掘立柱建物跡と柱穴跡(北から)